

狂人は笑う

夢野久作

青空文庫

青ネクタイ

「ホホホホホホ……」

だつて可笑おかしいじやありませんか。

……わたし妾はねえ。失恋の結果世を儚はかなみて、何度も何度も自殺し

かけたんですつてさあ。

いいえ。妾は知らないの。そんな事をした記憶おぼえはチツトも無い

のよ。初めつから失恋なんかしやしないわ。第一相手がわからないじやないの……ねえ。可笑しいでしょう。ホホホホホホ……。

それあ変なのよ。女学校を出てからというもの毎日毎日お土蔵くらの二階の牢屋みたいな処に閉じ込められて、一足も外へ出ちやいけないって云い渡されていたの。何故なぜだかよくわからないけど：：おまけに着物も何も取上げられちやって、妾ほんとうに極きまりが悪かったわ。着物を引裂いて首を縊くるからですってさあ。妾はもう情なくて情なくて……。

御飯を持って来てくれるのは乳母ばあやだけなの。お父さんは妾が生れない前にお亡くなりになるし、お母さんも妾をお生みになると直ぐに、どこかへ行っておしまいになったんですって……。ですから妾は、その頃まで独身者で、お金を貸していた叔父おじさんの手ばあやに引き取られて、その乳母ばあやのお乳で育つたのよ。それあい乳母ばあや

だったの……。

その乳母ばあやが、妾が小さい時に持つていた、可愛らしい裸体はだかのお人形さんを持つて来てくれた時の嬉うれしかったこと……。

……まあ。お前は今までどこに隠れていたの。お母様と一緒に遠い処へ行つていたの。よくまあ無事で帰つて来てくれたのね……
……つてそう云つて頬ずりをして泣いちゃつたのよ。そうして妾は、それからというもの、毎日毎日来る日も来る日も、そのお人形さんとばつかりお話していたの。お母様のことだの、お友達のことだの、先生の事だの……それあ溫柔おとなしい、可愛らしい、お利口な、お人形さんだったのよ。

そうしたらね。そうしたら或る夕方のことよ……。

お土蔵くらの鼠が、そのお人形さんのお腹を喰い破つちやつたの。そうして中から四角い、小さな新聞紙の切れ端を引き出したのよ。妾がチャンと抱っこしていたのに……ええ。そうなのよ。そのお人形さんのお腹の壊れた処を新聞で貼つて、その上から丈夫な日本紙で貼り固めて在あつたの。それが剥はがれて出て来たの。大方おおかた鼠がその糊を喰べようと思つて引き出したのでしよう。可哀そうにねえ。

妾その時ドレ位泣いたか知れやしないわ。そうしてね、余りあんま可哀そうですから、頂き残りの御飯粒で、モト通りに貼つてやりましょうと思つた序ついでに、何の気も無しに、その切端きれはしの新聞記事を読んでみたらビックリしちやつたの。妾、今でも暗記してるわ：

…あんまり口惜しかったから……。

こうなのよ……。

……彼女は遂に発狂して、叔父の家の倉庫の二階に監禁かんきんさるに到った。ここに於て彼女を愛していた名探偵青ネクタイ氏は憤然として起たち、この事実の裏面を精探すると、驚くべき真相が暴露ばくろした。すなわち強慾なる彼女の叔父は、彼女の母親の財産を横領せむがため、窃ひそかに彼女の母親を殺して、地下室の壁の中に塗籠ぬりこめたもので、次いでその遺産の相続者たる彼女を不法檻禁して発狂せしめ、法律上の相続不能者たらしめようとしていた確証が発見され、彼女の正気なる事が判明したので、彼女は巨万の富を相続すると同時に、青ネクタイ氏と結婚する事になった。同時

に悪むべき彼女の叔父は死刑の宣告を受けて……。

……つていうのよ。ねえそうでしょう。あのお人形さんは、妾に本当の事を教えに来てくれた天使だったのよ。ねえ。そうでしょう。妾、その晩、日が暮れると直ぐに、お土蔵を脱け出しちやつたの……。

いいえ。お土蔵を脱け出すくらい何でもなかったのよ。妾あんまり口惜しかったから、アノお土蔵の二階の窓に嵌まつていた鉄の格子ね。あれを両手で捉まえて力一パイ引っぱつてやったら、まるで飴あめみたいに曲つてしまつて、窓枠と一緒にボロボロツと抜けて来たのよ。キツト鉄でなくて、鉛か何かだったのでしょう。何から何まで人を欺だましていたことが、その時に、初めてわかつた

わ。妾は口惜し泣きしいしい、その窓から飛び降りたのよ。

それから人に見付からないように、お縁側から這はい上つて、奥の押入の中に在る長持と、壁の間に挟はさまつてジイツとしていたの。随分苦しかったわ……でも叔父は用心深いんですからね。雨戸を閉めちやったら、もうトテモ這はい入れないのよ。そのうちに、やつとの思いで夜が更ふけて来て、お台所の時計が十二時を打つのをちヤンと数えてから、ソーツと押入を出て行って、叔父の蒲団ふとんの下に隠して在った白鞞しろさやの刀を、中味だけソーツと引き抜いてしまつたの……叔父はいつもそうして寝ていたんですからね。そうして素すツ裸はだか体のままお酒を飲んで寝ている憎らしい叔父の顔をメチヤメチヤに斬つてやったの……お母さんの讐敵かたき……つて云つてね。

…：それあ怖かったわ。血みどろになった素ツ裸す ばだか体の叔父が、死物狂いになって掴みかかって来るんですもの。それをあつちに逃げたり、こつちに外そらしたりしながらヤツトの思いで斬り倒してやったわ。

それから大勢の雇やといにん人が出て来て、妾の事をキチガイだキチガイだつて、ワイワイ騒ぎ出したの。妾口惜しかったから思い切つて暴れてやったわ。大きな男が色々な物を持って向つて来るのを、何人も何人も斬つたり突いたりしてやったけど、大勢にはどうしても敵かなわなかつたの…：だつて撃剣の上手なお巡査まわりさんなんか呼んで来て加勢させるんですもの。妾、お床の間の前に追い詰められながら、一生懸命に刀を振りまわして闘つてみたけど、ト

ウトウ刀をタタキ落されちゃったの。おまけに叔父さんの死骸しがいに引つかかってドタンと尻餅を突いたお蔭で逃げ損って、そのお巡ま査わりさんに押え付けられてしまったのよ。デモ面白かったわ。ホホホホホ……。

それから自動車でこの病院に連れて来られると、ここの院長さんが思いがけない親切な方で、トテモトテモ頭のいい方だったのよ。お美味いい冷ひや水を何杯も何杯も御馳走ごちそうして下さった上に、妾の話をスツカリ聞いて下さって、色んな事を云って聞かせて下さったのよ。……モウ暫くの間キチガイになった振りをして、この病院に這入っていた方がいってネ……そう仰おっしゃ言いるの……お前の叔父さんはまだ生きていて、青ネクタイ氏と裁判所で争うって云

っているのだから、その叔父さんの罪状が決定して、監獄に入られるようになったら、その時に病院から出してやる。青ネクタイ氏とも結婚させてやる。それまで辛抱して待つていないと、叔父さんが又ドンナ悪企みをして、お前の生命いのちを取りに来るか解らない。しかしこの鉄筋コンクリートの室へやに隠れていれば、誰も近づく事は出来ないからつてネ……そう云つて下すつたから、妾スツカリ安心して、ここに隠れているのよ。そのうちに青ネクタイ氏が、キツト会いに来て下さると思つてネ……楽しみにして待つていたのよ……。

そうしたら可笑おかしいの……まあ聞いて頂ちようだい戴……この頃ヤツト気が付いたの……。

ここの院長さんこそ名探偵の青ネクタイ氏なのよ。……ホラ御覧なさい。誰だつてビツクリするにきまつているわ。妾だつてオンナジ事よ。あんなに頭が禿はげていらつしやるのでチツトも気が付かなかつたのよ。

でもこの頃、窓の前をお通りになるたんびに青いネクタイを締めていらつしやるでしょう。新しい……派手しまなダンダラ縞しまの……ネ。ですからもしやそうじゃないかと思つて気を付けていたらヤツトわかつたのよ。

妾、感謝しちやつたわ。あんなにまで苦心して、妾を保護して下さるんですもの……。

何故つてあの禿はげ頭あたまは変装なのよ。仮髪かつらなのよ。オホホホホ

ホ。可笑しいでしょう。妾はチャンと知っているけど知らん顔をしているの。でも時々可笑しくて仕様がなくなるのよ。

あんな禿頭の人と結婚するのかわかってね。ホホホホホ。ハハハハハハ……。

崑崙茶
こんろんちや

婦長さん……看護婦長さん。チヨツトお願いがあるんです。ちよつと来て下さい。大至急のお願いが……。

あのね……耳を貸して下さい。済みませんが……。

……僕の不眠症の原因がわかったんです。ここへ入院してからというもの、どうしても眠れなかった原因が……。

僕は飛んでもない呪詛のろいにかかっているのです。イイエ。虚構うそじ

やありません。卒業論文なんかに呪のろ詛ろわれて、神経衰弱にかかったんじやありません。別にチャンとした原因があるのです。事実の証拠が眼の前に在るのです。

僕はね……ビツクリしちやいけませんよ。僕はね。すぐ横のベッドに寝ている支那の留学生ね。アイツに呪詛のろわれているのですよ。あいつに呪詛のろわれて殺されかけているのです。ですからこの室へやに居たら到底助かりっこないのです。

エツ……どの支那人かって……？ ……ホラ……そこに寝ているじやありませんか。貴女あなたの背後うしろの寝台に……エツ……そんなものは見えないって……？ ……貴女は眼がドウかしているんじゃないですか。……ね。わかったでしょう。あいつですよ。ツイ今

しがた先生に注射をしてもらったばかりなんです。ね、グーグー眠っているでしょう。

何ですって……？ ……あの支那人を僕の脅きょうはく迫はく観念が生んだ妄想だつて云うんですか……？ ……そ………そんな事があるもんですか。チャンとした事実だから云うんです。ね。御覧なさい。死人のように頬ほっペタを凹へこまして、白い眼と白い唇くちびるを半分開いて……黄色い素焼みたいな皮膚ひふの色をして眠っているでしょう。

僕はその顔色を見てヤツト気が付いたのです。この留学生はキツト支那の奥地で生れたものに違い無い。あの界限かいわいで有名な、お茶の中毒患者に違い無いと……。

イイエ。貴女は御存じ無い筈はずです。

お茶に中毒した人間の皮膚の色は、みんなアンナ風に日暮れ方のような冷たい、黄色い色にかわるのです。光いろつや沢つやがスツカリ無くなってしまふのです。そうして非道ひどい不眠症かかに罹かかつて、癡人かかみたようになつてしまふのです。

イヤ。それが普通のお茶とは違うのです。

普通のお茶だったら僕なんかイクラ飲んだつてビクともするんじゃないありませんがね。あの留学生が持っている奴はソナ生やさしいもんじゃありません。崑崙こんろんちや茶ちやといつて、一種特別のタンニンを含んだお茶から精製したエキスみたいなものなんです。ですからトテモ口先や筆の先では形容の出来ない、天下無敵のモノスゴイ魅力でもつて、タツタ一度で飲んだ奴を中毒させてしまふん

です。トツテモ恐ろしい、お茶の中のお茶といつてもいい位な、お茶の中のナンバー・ワンなんです。

その崑崙茶のエキスで作った白い粉末で「茶精」っていう奴をあの留学生は、どこかに隠して持っているのです。どこに隠しているかわかりませんが……支那人の中には魔法使いみたような奴が多いのですからね。……そいつを僕の枕元の鎮静剤ちんせいざいの中に、すこし宛粘りずつひね込んでいます。そうして誰にもわからないように、僕の生命いのちを取ろうとしているのです……僕は時々頭から蒲団ふとんを冠かぶる癖くせがありますからね。その隙すきに入れるんだろうと思うんですが……僕が頂いている鎮静剤はステキに苦いでしょう。おまけにプンと臭においがするでしょう。ですから「茶精」が仕込んで在る

のが解らないんです。

エツ……そんな悪戯いたずらをする理由ですか。

それあ解り切っているじゃありませんか。貴女はまだ不眠症にかかった事が無いんですね。そうでしょう。……いつもかも、睡ねむくて困る……アハハ……だから不眠症患者の気持がわからないのですよ。

……こうなんです。アイツは僕が先生の注射のお蔭でグーグー眠っているのを見ると、妙に苛立いらだたしくなって、癩しやくさわに障さわって来るのです。そうして終しまいには殺ころしてしまいたいくらい憎にくらしくなつて来るんです。

イヤ。そうなんです。これが不眠症患者の特徴なんです。つ

まり極端なエゴイストになってしまいうんですね。いくら眠ろう眠ろうと思っても、思えば思うほど眠れない事がわかって来ると、だんだん気違いみたいな気持になって来るんですよ。……世界中の人間が一人残らず不眠症にかかって、ウンウン藻掻もがいている真まんなか中で、自分一人がグーグー眠れたらドンナにか愉快だろう……なんかと、そんな事ばかりを、一心に考え詰めている矢先やさきに、横なの方から和なごやかな寢息がスヤスヤ聞えて来たりなんかしたら、最早もトテモたまらなくなるんです。神経が一遍に冴え返ってしまつて、煮えくり返るほど腹が立って来るんです。聞くまいとしてもその寢息が一つ一つにスヤリスヤリと耳の奥に沁しみ込こんで来る。そのたんびに腹立たしさがジリジリと倍加して行く。しまいには

その寢息の一つ一つが、極度に残忍な拷問ごうもんか何ぞのようかに思われて来て、からだ身体中にビツシヨリと生汗なまあせがニジミ出て来るのです。そうして、その寢息をしている奴を殺すか、自分が自殺するか、二つに一つ……といったような絶体絶命の気持になって、あつちに寝返り、こつちに寝返りし初めるのです。アイツは僕のために、毎晩そんな気持を味わせられているんです。おまけに僕は肥厚性鼻炎なんですから、眠ると夜通しイビキを搔かくでしょう。その上に相手は個人主義一点張りの支那人と来ているんですから、一層たまらない訳でしょう。

ですからアイツはその茶精を使って、僕を絶対に眠らせまいとしているのです。そうして僕を次第次第に衰弱させて、殺して終しま

おうと巧たくらんでいるのです。

イヤ。それに違い無いのです。僕は昂こう奮ふんなんかしていません。キットそうなのです。駄目です駄目です。僕の空想なんかじゃありません。……この室へやに居ると僕はキット殺されます。……どうぞ助けると思つて僕を他の室に……エツ……室が満員なんですつて？ そんなら野天のてんでも構いません。どうぞどうぞ後生ですから、僕を別の室に……。

……何ですか。崑崙茶の由来ですか。……貴女は御存じ無いのですか。

へエ。崑崙茶がドンナお茶か見当が付けば、中毒を解くのは何でもない。……成る程。植物性の昂奮剤は色々あるから、話をよ

く聞いて見ない事には見当の付けようがない。……そんなものですかねえ。……そんなら訳はないでしょう。その留学生が持つている「茶精」を取上げて分析してみたなら直ぐに判明わかるでしょう。

……成る程。隠している処がわからないと困る……それもそうです。……キット魔法使いみたいな奴に違い無いのですからね。……そればかりじゃない。注射で眠っている奴を途中で起すと、利きき残った薬が身体からだに害をする……そんなもんですかねえ。へエ……。

実は僕も崑崙茶の成分なんか知らないんですがね。イイエ。与太話なんかじゃありません。そのお茶に関するモノスゴイ話だけなら、ズット以前に何かの本で読んだ事があるんですが……僕は

モトから支那の事を研究するのが好きでね。支那は昔から実に不思議な国ですからね。僕の憧^{あこがれ}憬の国といつてもいい位なんです。今度の卒業論文にも支那の降神術に関する文献の事を書いておいたんですが……。

へエ。貴女^{あなた}も支那のお話がお好きですか。御祖父^{おじい}さんが漢学者だったから……ああそうですか。それじゃ聞かして上げましょうとも。しかし、他の話なら兎^とも角^{かく}、崑崙茶の話だったら、その御祖父様から、最早^{もはや}、トツクの昔にお聞きになつてゐるかも知れませんがね。有名な話ですから……へエ。全く御存じ無いんですか。妙ですね。それじゃ貴女が思い出されるかどうか話してみましよう。

しかしその支那人が眼を醒ましやしないでしょうか。へエ。明日の朝まで大丈夫。そうですか。それじゃお話ししましょう。まあ腰をかけて下さい。

貴女は四川省附近に、お茶で身代しんだいを無くした人間が多い事を御存じじゃ無いですか。へエ。それも御存じ無い。アノ附近に限られているのですからかなり有名な事実なんですが……。

エエ、そうです。随分珍妙な話なんです。酒や女で身代からだ限りをするのなら当り前ですが、お茶の道楽で身体からだを持ち崩して、破産するといふのですから、馬鹿馬鹿しいのを通り越しているでしょう。トテモ支那でなくちや聞かれない話なんです。

御存じの通り支那人という奴は……聞えやしないでしょうね……

…チャンチャンという奴は、国家とか、社会とかいう観念となる
 と全然無いと云つていい位に、個人主義的な動物ですが、その代
 りに私的の生活に関する、きょうらく享樂手段の發達している事といつ
 たら、世界一と断言していいでしょう。着物でも、すまい住居でも、料
 理でも、酒でも、香料でも…ね…御存じでしょう…エ口の
 方面でも何でも、個人的な享樂機關と来たら、四千年の歴史を背バ
 景ツクにしているだけに、スバラシイせんたん尖端的などころまで發達を遂
 げているんです。

……ですからタツタ一つのお茶といったような問題に就ついても、
 ドエライ研究が行き届いているに違い無い事が、すぐに想像され
 るでしょう。

全くその通りなんです。しかも日本人なんかはイクラ想像したつて追付おいつかない位、メチャクチャな発達を遂げているのですが、その中でも亦また、特別誂あつちえの天下無敵の話っていうのが、この崑崙茶の一件なのです。

先ず、支那の奥地の四川省しせんから雲南うんなん、貴州きしゅうへかけて住んでいる大富豪の中で、お茶の風味がよくわかつて、茶器とか、茶室とかの趣味に凝こり固まった人間が居るとしますかね。又は酒や、女や、阿片や、賭博なんかでも、あらゆる贅ぜいたく沢をし尽した道楽気の強い人間が、今度は一つ、お茶の趣味に深入りしてやろうと決心したとしますかね。いいですか。そこで何でも彼かでも良いいお茶良いいお茶と金に飽あかして、天てんじょう井い知らずに珍奇なお茶を手に

入れては、それを自慢にして会合を催したり、ピクニックを試みたりして行くうちには、キット崑崙茶を飲みたいといふところまで、お茶熱が向上して来るのです。……むろん崑崙茶といったら、お茶仲間の評判の中心で、魅惑みわくのエースと認められている事だし、お出入りのお茶屋が又チャンチャン一流の形容詞沢山で……崑崙茶の味を知らなければ共にお茶を談ずるに足らず……とか何とか云つて、口を極きわめて誘惑ゆうわくするんですから、下地のある連中はトテモたまりません。それでは一つ……といったような訳で、思い切り莫大なお金をお茶屋に渡して、周旋を頼むことになるのです。

ところで崑崙茶を飲みに行く連中が、雲南、貴州、四川の各地方の都会に勢揃いをして出かけるのは、大抵正月過ぎから二月頃

までの間だそうです。つまり崑崙山脈までの距離の遠し近しによつて、出発の早し遅しが決まるのだそうですが、その行列というのが又スバラシイ観物みものだそうです。

真まっさき先に黄色い旗を捧げた道案内者が、二人か三人馬に乗つて

行くと、その後から二三匹宛ずつ、馬の背中に結び付けられた猿が合

計二三十匹、乃至ないし、四五十匹ぐらい行くのです。その間あいだあいだ間に

緑色の半纏はんでんを着た茶摘男ちやつみとか、黄袍おうほうを纏まとうた茶博士ちやはかせとか

いったような者が、二三十人入り交まじつて行くのですが、この猿が

何の役に立つかは後で解ります。それから些すくなくて三四台、多く

て七八台から十台位の、美事に飾り立てた二頭立の馬車が行くの

で、その中に崑崙を飲みに行く富豪だの貴人だのが、めいめいに

自慢の茶器を抱えて乗っている訳ですが、この時に限って支那富豪に付き物のお妾めかけさんは、一人も行列の中に加わっておりません。全く男ばかりの行列なんだそうですが、その理由も追々おいおいとわかって来るでしょう。

その後から金銀細工の鳳凰ほうおうや、蝶々なんぞの飾りを付けた二つの梅漬うめづけの甕かめを先に立てて、小行李とか、大行李とかいった式の食料品や天幕テントなんぞを積んだ車が行く。その後から武器を持った馬賊みたような警固人が、堂々と騎馬隊を作って行くので、知らない者が見ると戦争だかお茶飲みだかチョット見当が付かない。ちようど阿刺比亞アラビヤの沙漠を渡る隊商ですね。とにかくソンナ大騒ぎをやって、新茶を飲みに行こうというんですから、支那人の享

楽気分というものが、ドレ位徹底しているものだから、殆んど底が知れないでしょう。

彼等はそれから嶮岨な山道を越えたり、追剥や猛獣の住む荒野原を横切ったり、零下何度の高原沙漠を、案内者の目見当一ツで渡ったりして、やがて崑崙山脈の奥の秘密境に在る、遊神湖という湖の近くに到着するのです。そこいらは時候が遅いので、ちようどその頃が春の初めくらいの暖かさだそうですが、その景色のよさといったら、実に何ともカンとも云えないそうですね。

詳しい事は判然りませんが、その遊神湖という湖の周囲には、歴史以前に崑崙国と云って、素敵に文化の進んだ一つの王国があったそうです。ところが、その国民は極端に平和的な趣味を愛好

した結果、崑崙茶の風味に耽溺し過ぎたので、スツカリ氣力を喪つて野蠻人に亡ぼされて終つたものだそうです。今でもその廢墟が処々の山蔭や、湖の底からニヨキニヨキと頭を出しているようですが、その周囲には天然の森が茂り、高山風の花畠が展開して、珍らしい鳥や見慣れぬ蝶が、長閑に舞つたり歌つたりしている。底の底まで澄み切つた青空と湖の間には、新鮮な太陽がキラリキラリと回転している……といったような絵にも筆にもつくせない光景が到る処に展開している。その中でも一番眺望のいい処に、各地方から集まつた隊商たちは、先を争つて天幕を張りまわすと、手に手にお香を焚いたり、神符を焼いたりして崑崙山神の冥護を祈ると同時に、盛大なお茶祭を催して、滅亡びた崑崙

王国の万霊を慰めるのだそうですが、これは要するに、迷信深い支那人の気休めでしかないと同時に、お茶の出来る間の退屈しの凌ぎに過ぎないのでしよう。

一方に馬から離れた茶摘男たちは、一休みする間もなく各自めいめいに、長い長い綱を附けた猿を肩の上に乗せて、お茶摘みに出かけるのです。うっそう鬱蒼たる森林地帯を通り抜けると、がんせき巖石峨々として半天に聳そびゆる崑崙山脈に攀よじ登って、お茶の樹を探しまわるのですが、崑崙山脈一帯に叢そうせい生するお茶の樹というのは、普通のお茶の樹と種類が違ちがうらしいのです。皆スバラシイ大木ばかりで、しかも、切つて落したような絶壁の中途に、岩の隙間を押分けるようにして生はえているのだそうですから、猿でも使わない事には、

トテモ危険で近寄れない訳です。ところでその猿が又、実によく仕込んだもので、そんなお茶の大木の梢こずえにホンノちよつぴり芽を出しかけている、新芽の中の新芽ばかりをチヨイチヨイと摘つみ取ると、見返りもせず人間の手許へ歸つて来るのだそうです。

そこでソナのような冒険的な苦心をした十人か十四五人の茶摘男が、めいめいに一握りか二握りのお茶の新芽を手に入れると、大急ぎで天幕張りの露营地テントに歸つて来ます。そうすると待ち構えていた茶博士……つまりお茶湯ちやのゆの先生たちですね。それが崑崙茶の新芽を恭しく受取つて、支那人一流の頗すこぶる付きの念入りな方法で、緑茶に製し上げるのです。それから附近の清冽な泉を銀の壺くに掬くんで、崑崙こんろと名づくる手捏てづくりの七輪しちりんにかけて、生温なまぬる

いお湯を湧かします。そうしてその白湯を凝りに凝った茶碗に注いで、上から白紙の蓋をして、その上に、黒い針みたような崑崙の緑茶を一ひとつま抓みほど載せます。そうしてその白紙の蓋がホンノリと黄色く染まった頃を見計らみはかって、紙の上の茶粕を取除とりのけると、天幕テントの中に進み入って、安樂椅子の上に身を横たえた富豪貴人たちの前に、三拝九拝して捧げ奉るのです。

富豪貴人たちはそこで、その茶器の蓋をした白紙を取除いて、なまぬる生温い湯をホンノ、チョツピリ啜りすす込むのです。むろん一口味わった時には、普通の白湯さゆと変りが無いそうですけれども、その白湯を嚙のみ下さないで、ジツと口に含んだままにしていると、いつとはなしに崑崙茶の風味がわかって来る。つまり紙の上に載つ

ていた緑茶の精気が、紙を透した湯気ゆげに蒸むされて、白湯の中に浸み込んでいるのだそうですが……。

……ドウデス。ステキな話でしょう。それはもう何とも彼かんともいえない秘めやかな高貴な芳香が、歯の根を一本一本にめぐりめぐって、ほのかにほのかに呼吸こされて来る。そのうちにアラユル妄想や、雑念が水晶のように凝こり沈み、神気が青空のように澄み渡って、いつ知らず聖賢の心境こころごうに暝めいごう合し、恍然こうぜんとして是非を忘れるというのです。その神々こころごうしい気持よさというものは、一度味あじわつたらトテモトテモ忘れないものだそうです。

ええ。無論そうですとも。夜になつても眠られないのは、わかり切った事です、しかし富豪たちはチツトも疲れを感じません。

影のように附添つて介抱する黄色い着物の茶博士たちが、入れ代り立ち代り捧げ持つて来る崑崙茶の靈効でもつて、夜も昼も神仙とおんなじ気持になり切っている。神凝り、鬼沈み、星斗と相語り、地形と相抱擁して倦むところを知らず。一杯をつくして日につてんし天子を迎え、二杯を啣くんで月天子を顧みる。氣宇凜然として山河を凌り銷し、万象瑩然えいぜんとして清爽せいそう際涯さいがいを知らずと書物には書いてあります。

けれどもその間は、お茶の味をよくするために食物を摂りませぬ。ただ梅の実の塩漬と、砂糖漬とを一粒宛ずつ、日に三度だけ喰べるのですから、富豪たちの肉体が見る見る衰弱して行くのは云う迄もない事です。安楽椅子に伸びちやつたまま、黄色い死灰しかいのよ

うな色いろつや沢さわになつて、眼ばかりキラキラ光らしている光景は、ちようど木乃伊ミイラの陳列会みたいで、気味の悪いとも物凄ものすごいとも形容が出来ないそうです。

ところが、おしまいにはその眼の光りもドンヨリと消え失せてしまつて、何の事はないキョトンとした空からつぽの人形にんぎよみたいな心理状態になる。身動きなんか無論出来ないのですから、お茶は介抱人に飲ましてもらもらう。その時のお茶の味が又、特別とくべつにおいしいのだそうで、身体中からだがお茶の芳香かほに包まれてしまつたようなウツトリとした気持きもちになるのだそうですが、やはり神経が弱り切つてゐるせいでしょうね。その代りに糞くそも小便も垂れ流しで、ことに心神消しょうもう耗しょうもうの極、遺精を初める奴が十人が十人だそうですが、

そんなものは皆、茶博士たちが始末して遣るのだそうで、実に行届いたものだそうです。

こうして二三週間も経つうちに、最初は麓ふもとの近くに在った新茶の芽が、だんだんと崑崙山脈の高い高い地域に移動して行きます。それに連れて採取が困難になって来る訳で、やがて新茶が全く採れなくなつたとすると、茶摘男と茶博士が一緒になつて、その生きた死骸かたみたいに弱り切つている富豪貴人たちを、それぞれに馬車の中へ担かつぎ込んで、牛酪ぎゅうらくや、骨羹こつかんなぞいう上等の滋養分を与えながら、来がけよりも一層ユツクリユツクリした速度で、故郷へ連れて帰るのです。つまり日中を避よけて、朝の間まと夕方だけ馬を歩かせるので、あんまり速く馬を歩かせたり、モウ夏にな

りかけている日光に当てたり何かなんかすると、眼をまわしてへたバル奴が出来かねないからだそうです。

ところで、コンナ風にしてヤツトの思いで、七八箇月ぶりに故郷に帰り着いても、まだ半死の重病人みたいになっている奴が居るようですが、しかしどっちにしてもこの崑崙茶の味を占めた奴はモウ助からないそうです。完全なお茶の中毒患者になっているんですから、来年の正月過ぎになると、今一度飲みに行きたくて堪たまらなくなる……尤ももこれは無理もない話でしょう。支那人一流の毒々しいエロと、バクチと、酒池肉林式の正月気分、ウンという程飽ほう満まんしたアトの富豪連ですから、そうした脱俗的なピクニツク気分を起すのは、生理上むしろ当然の要求かも知れませ

んからね。

そこで又行く。その次の年も行く。度重なるに連れて、お茶仲間からは羨ましがられるばかりでなく、お茶の勲爵士ナイトとしての無上の尊敬を受けるようになる。崑崙仙士とか道人とかいったような特別の称号なんかを奉られて、仙人扱いにされるのだそうです。が、しかし、何しろその一回の旅行費だけでも一身代かかる上に、頭も身体からだも役に立たない廃人同様になつて、あらゆる方向から財産を消耗する事になるのですから、余程の大富豪で無い限り、四五遍も崑崙茶を飲みに行くうちには、財産しんしょうをスツカラカンに耗すつてしまうものだそうです。又、それ程左様にこの崑崙茶が、古今無双の、生命いのちがけの魅力を持つているらしい事は、モウ大抵

おわかりになったでしょう。

ドウデス、婦長さん、スバラシイ話でしょう。ヤンキー一流の贅ぜいたく沢だつて、ここまで徹底してはいないでしょう。ハハハ……。

ところがここに一つ困った問題が残っているのです。それはその身代を耗すつてしまった、中毒患者の崑崙仙士君です。むろん又と崑崙茶を飲みに行く資力なんか無いのですが、しかしその味だけはトコトンまで腹はらわたに沁み込んでいてトテモトテモ諦められない。そこで仕方なしに、せめてアノ神凝しんこり、鬼沈きしずんだスバラシイ高踏たかた的な気分だけでも味わいたいものだというので、古馴染ふるなじみの茶店から「茶精」というものを買つて飲むんです。これは今お話した富豪連が、崑崙山の麓で使い棄てた緑茶の出だし殻がらから精製した白

い粉末で、相当高価なものだそうですが、それでも我慢して、普通のお茶に交まぜて服のんでみると、芳香や風味は格別無い代りに、純粹のエキスですから神気の冴える事は非常なものです。毎日毎夜打ぶつ通とおしに眠れない。そうして、しまいには昼も夜もわからない、骨と皮ばかりの夢うつつみたいになって死んで行く奴が多い。しかも支那の事ですから、阿片と同様に取締りが絶対不可能と来ている。中には崑崙茶の味なんか知らないまま、見様見真似に「茶精」の味ばかりに耽たんでき溺して、アツタラ青春を萎縮させてしまふ青年少女も居るといった調子ですが、今そこに寝ている支那留学生は、たしかにその一人に相違ないのです。僕がこの病院に入院して以来、注射を受けなければ絶対に眠れないようになった

のは彼奴きやつのせいに相違無いです。

……ね。婦長さん。ですから済みませんが僕の室へやを換えて下さい。イエイエ。口実じゃ無いのです。僕はソナ恐ろしいお茶の中毒患者になって、青春を萎しぼましてしまいましたくないのです。どうぞどうぞ後生ですから……サ……早く……そいつが眼を醒まさないうちに……。

ナ……何ですって……。支那の魔法ですって……。？……。

へエ……貴女がお祖父様じいからお習いになった支那の魔法の中に、飛去来術ひきよらいじゆつというのがある。へエ。それはドンナ魔法ですか。

イエエ。初めて聞いたんです。全く知らないんです。飛去来術なんて……へエ。その魔法を応用したら、僕の煩悶はんもんなんか他愛

なく解決されてしまう。ホントウですか……へエ。コンナ密室でしか行えないから都合がいい。へエ。貴女なら嘘は仰おっしゃ言らないでしょう。教えて下さい。ヤツテ見て下さい。その飛去来術っていうのを……どうするのですか。

眼を閉じている……いいです。閉じています。……そうして一から十まで数える……支那の数え方で……ええ。知ってますとも。大きな声で……よろしい。承知しました。いいですか数えますよ。

……イイイ……アルウ……サンン……スウウ……
ウウウ……リユウウ……チイイ……ペアア……チユウウ
……シイイイツ……と……

いいですか。眼を開けますよ。

……オヤア……これあ不思議だ……。

留学生が居ない。寝台ごと消えて無くなりやがった。コンクリートの壁になってしまった……たしか確に壁だ。寝台一つしか這入らない狭い室へやになってる。……おかしいな……この間から僕はあの支那人のことばかり気にしていたんだが……変ですねえ。どうしたんですか婦長さん……。

……オヤツ……婦長さんも居ない。

いつの間に出て行つたんだろう。寝台の下にも……居ない。イヨイヨ可笑おかしい。俺はサツキからひとりごと独言を云つていたのか知らん。チヨツとこの薬を嘗なめて……みよう。

……苦くも何ともありやあしない。塩しよっぱい味がする……重曹

の味だけだ。オカシイナ……オカシイ……。

……アツハツハツハツハツ。やつと解った。

これが飛去来術なんだ。今の間に室と薬がかわったんだ。

……エライもんだなあ婦長さんの魔法は……まるで天てん勝かつみた

いだ。有難い有難い。お蔭でこれから安心して眠れる。

……ああ驚いた……。

面白い国だなあ支那という国は……。

アツハツハツハツハツハツハツ……。

青空文庫情報

底本：「夢野久作全集⁸」ちくま文庫、筑摩書房

1992（平成4）年1月22日第1刷発行

底本の親本：「瓶詰地獄」春陽堂

1933（昭和8）年5月15日発行

入力：柴田卓治

校正：ちはる

2000年9月30日公開

2012年5月16日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

狂人は笑う

夢野久作

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>